

沿岸部の復興のために 私たちができること

沿岸部へ物資・義援金を

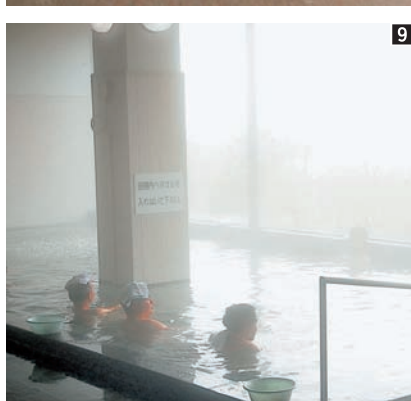
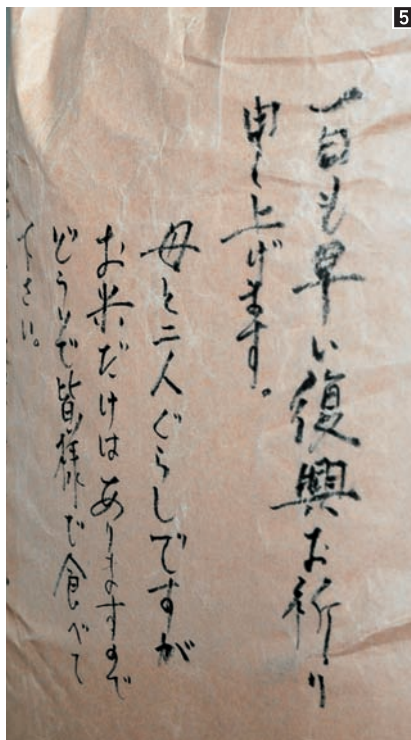
市は、地震と津波で甚大な被害を受けた陸前高田市・大船渡市を支援するため、物資の受け付けを3月18日から、搬送を19日から開始。現地に物資を届けた際には、不足している日用品などの状況を把握し、それに応えた体制を整えました。

25日には小沢昌記市長、渡辺忠市議会議長らが、両市を

訪問。小沢市長は「我々を近くの親せきと思っしてほしい。今後顔の見える形で、支援を行っていく」という励ましの言葉とともに、市からの義援金100万円と、市議会からの救援物資として米1・5トなどを届けました。

心も体も芯までホットに

市内各地で多くの団体が、沿岸部の被災者を支援する活



動を実施。その活動の一つとして、被災者を温泉に招待する活動が24日、前沢温泉「舞鶴の湯」で行われました。避難所暮らしを続けている陸前高田市民141人が招かれ、温泉と昼食で安らぎのひとつを過ごしました。この支援は、前沢商工会青年部（後藤和也部長）が企画し、同女性部（阿部セツ子部長）と市が協力したものです。

来奥当初、疲れた表情を浮かべていた被災者の皆さん。温泉にゆっくり漬かり、温かい食事でお腹を満たすと、徐々に笑顔が見られるようになりました。帰り際には、皆さんから感謝の言葉と、ねぎらいの拍手をいただきました。

■支援活動に参加して ～参加者の声～



前沢商工会女性部部长
阿部セツ子さん(70)

被災者を温泉に受け入れる際、私たち女性部はお出迎えや配膳、接待を担当しました。被災者の皆さんが胸にためている思いを聞き、共に涙を流しました。お話を聞いてあげること、皆さんの心の負担をいくらかでも和らげることができたと思います。温泉への招待が大変喜ばれ、とてもうれしかったですね。今後も可能な限りの支援を続けたいと思っています。



左から 内田典那くん(金ヶ崎高1年)、佐々木裕哉くん(水沢高1年)、猪狩優哉くん(水沢工1年)

被災者の助けになりたくて、仕分けボランティアに参加しました。物資を届けてくれた人たちの思いをしっかりと届けるために、がんばりました。高校の入学を前に、中学校の部活の仲間と一緒にお手伝いをできたことは、本当に良かったと思います。今後も、支え合う気持ちを大切にしていきたいです。



地震によってライフラインが寸断された人のために、市は、市内に避難所を設置しました。最大で17カ所に436人が避難してきました。避難所の一つ水沢南公民館では3月12日に、水沢区に住む婦人消防協力会員の協力を得て、炊き出しを実施。地震発生以後の停電や燃料不足で不安を抱えていた避難者たちは、温かい食事を口にし、安どの表情を浮かべていました。

断水となった地域では、給水所を設置したほか、仮設トイレを配備するなど、可能な限り生活面の支援を実施。不足する乳児用粉ミルク・おむつの募集に対して、数多くの市民に協力していただきました。そのほかに衣類、トイレトペーパー、洗剤、日用品など、数多くの救援物資が市内外から寄せられました。

18日には、共和開発(株)（佐藤信二社長）から社会福祉法人衣川会（佐藤祐宏理事長）へ軽油200リットルが寄贈されました。

「社員一同で、会社が所有する車や、重機のタンクに残っていたものをかき集めた。特に衣川会さんで燃



料が無く困っていると聞いたので、この軽油を使ってほしい」と佐藤社長。デイサービス用の送迎車の燃料が底をつき、困っていたところに届けられた温かい申し出によって、多くの利用者の生活が支えられました。このように、日を追うごとに広がっていった助け合いの輪は、被災者を助け、勇気づけたのです。

1 避難者に炊き出しを行う婦人消防協力会員の皆さん 2 手際よく、たくさんのおにぎりを作る支援者たち 3 軽油 200リットルを寄贈した共和開発(株)の皆さん 4 断水地域では各地区センターに給水所を設置 5 復興への願いが込められた救援物資 6 沿岸部へ送る救援物資を届ける市民 7 集まった救援物資をトラックに積み沿岸部へ 8 大船渡市へ義援金を手渡す小沢市長 9 温泉にゆっくりと漬かり体を癒やす人たち

